

こうげい

都立工芸同窓会会報 No.186

2025年（令和7年）10月10日 発行

秋 *Autumn, 2025*

投稿を歓迎します

- 皆様のお仕事などでの成果、創作、社会貢献など、ご活躍のご様子をぜひお知らせください。
- クラス会の様子もお知らせください。

郵送先：都立工芸同窓会

（住所は工芸高等学校と同じで、最終ページにあります。）

またはホームページのお問い合わせより
ご投稿ください。



これからの工芸高校

統括校長 深澤 栄次



今年度、4月より本校に着任いたしました校長の深澤栄次です。よろしくお願いたします。前任校の橘高等学校では3年間、校長職を務めました。橘高等

学校は工業と商業を同時に学ぶ全国初の産業高校でした。私自身は工業機械科が専門ではありますが、商業の分野を私自身、学ぶこともできて大変有意義な経験でした。

4月に本校に着任して驚いたのは、生徒作品の完成度の高さと制作にかける生徒たちの意気込みでした。廊下や実習室前に展示してある生徒作品を見るのが楽しみで、着任後、しばらくは校舎内を巡回するのが日課でした。その中で特に印象に残ったのは生徒たちの作業風景です。じつと作品を見つめ一心不乱に作業に集中している生徒たちの姿に驚きを隠せませんでした。この作品作りは一切妥協しない、最後まで粘り強く、諦めずに取り組む生徒たちの姿勢こそが、工芸高校の

最大の強みだと私は確信しています。

さて、東京都では令和元年度より「TOKYOスマート・スクール・プロジェクト」を推進し、教育のデジタル化を強力に進め、学び方・教え方・働き方の一体的な改革に取り組み、令和4年度

の都立高等学校、都立中等教育学校後期課程及び都立特別支援学校高等部の入学生から生徒所有の一人1台端末を活用した授業を実施しています。また、本校は昨年度から実施されている文部科学省の高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）の推進校として、ICTを活用した文理横断的、探究的な学びを強化する学習にも取り組んでいます。これまでの黒板やノート、紙プリントを使った授業から、映像配信や電子データによる課題配布・回収、生成AIを活用した教材開発など、これまでの授業スタイルは大きく変わろうとしています。

しかし、すべてを電子化、情報化することが「ものづくり」の本質なのか、工芸高校の進むべき道なのか、というところは違っていると考えています。様々なICT機器を活用し、「道具」として使用する事により、人間の持つ豊かな感性や潜在的な能力を飛躍的に拡大させることができ、より完成度の高い作品制作を目指した教育を行うことが工芸高校の在り方だと考えています。どんなに工作機械が発展していても、最後の仕上げには必ず人の手

が入ります。そして「ものづくり」は一人ではできません、必ずチームで行います。コミュニケーションを通してチーム全体の意思疎通を図るにより、より吟味され完成度の高い作品に仕上がるのではないのでしょうか。

先日、東京都産業教育振興会主催の産学懇談会が本校で実施され、多くの先生方や企業の経営者の方が来校され、本校の施設や生徒の授業風景を見学していただきました。生徒が熱心に作品制作に取り組んでいる姿や完成度の高い作品を見て、多くの方から工芸高校は素晴らしいと、お褒めの言葉をいただきました。その中で振興会役員の皆様からいただいた言葉、「これこそがものづくりだ」「これが（今の教育には）必要なんだ」という言葉が今も印象に残っています。

社会全体の情報化の流れを止めることはできません。その中で工芸高校には何が必要なのか、 unnecessary のかを見極めなければなりません。今まで培ってきた工芸高校の教育の土台を崩さず、新しいものを取り入れる、これがこれからの工芸高校の進むべき道だと確信しています。これからも工芸高等学校は生徒たちが安心して学び、成長できる環境を提供するために、教職員一同、日々努力を続けてまいります。皆様の温かいご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

全日制PTA会長 熊谷周作

はじめまして、令和7年度全日制PTA会長を仰せつかりました熊谷と申します。ご縁があり息子が3年インテリア科在学中ですが、今や親の私も工芸生活を楽しませていただいています。創造性豊かな生徒たち、熱心な先生方、個性豊かな体育祭や魅力的な工芸祭をはじめとする学校行事など、すばらしい出会いに心から感謝する毎日です。一年間どうぞよろしくお願いいたします。

「新入生を迎える会」では同窓会の方々にもご参加いただき価値ある交流を図ることができました。

また6月に来日したフランススコルベル高校との親善交流では、一昨年に引き続き温かいご支援をいただき誠に有難うございました。

PTA活動においては、例年全日制、定時制の両PTA保護者がしっかりとつながることで「工芸祭談話室」「文化講演会」など各イベントを運営して参りましたが、今年度は同窓会の藤岡会長とも連携し幅広く工芸をサポートしていきたく話を始めたところです。

伝統ある工芸が今も変わらず優秀な人材を育て続けられるのは、諸先輩の方々が後輩の皆さんにきちんと伝承すべきことを伝承し、後輩もしっかりそれらを受け

継いでいるからに他なりません。学校に飾られている先輩方の作品は現役生の目標でありライバルです！

昨今Aーの台頭によって色々なモノの価値が変わると言われますが、工芸で個々の磨き上げたものづくりの技術や知識、それに加え人のつながる力はAー化された未来社会にも存在感を示すと思いますし、そこそが日本のものでぐりを支える力になると信じています！私たちPTAは今後も工芸応援団として全力でサポートしていきたくと考えております。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

2025年度総会報告

「都立工芸同窓会2025年度総会」が、5月17日(土)午前11時より母校1階視聴覚室において開催されました。

講演ダイジェスト

夢「日本の伝統文化・技法『ねぶた』を芸術として確立するために」が定時制ねぶた部の生徒5名と顧問、山内勇輝先生(定時制G科教諭)から報告が行われました。青森出身の山内先生から定時制ねぶた部が発足した経緯と想いの紹介の後、生徒5人から決して手を抜かない「高クオリティと感動させる作品」のための制作の手法や苦勞などの紹介があり40分間があったという間に過ぎました。

講演参加者

ご来賓・学校関係者14名
同窓会員29名……………総計33名



母校一階に展示されている作品



都立工芸同窓会2025年度総会

休憩を挟み11時55分より「2025年度総会」が開催され、12時20分総会は終了いたしました。

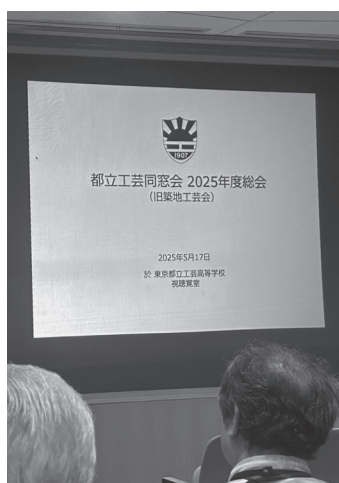
次第

- 一、開会の辞
- 二、会長挨拶
- 三、来賓代表挨拶
- 四、2024年度活動報告
- 五、2024年度決算報告 事務局
- 六、監査報告
- 七、2025年度新役員承認
- 八、2025年度予算案承認 事務局
- 九、閉会の辞

全てのプログラムが無事終了しました。

総会出席者

- ご来賓・学校関係13名
 - 同窓会員29名……………総計32名
- ご参加くださった皆様、ご協力頂いた同窓生の皆様大変ありがとうございました。



関西工芸会支部だより

関西工芸会の集いの御案内

先ずは関西工芸会の集いの御案内をさせていただきます。本年も昨年と同じ京都駅前にあります「うおまん」で開催致します。

《第62回 関西工芸会の集い》

2025年11月22日(土)

11時30分～14時30分

和食うおまん 都ホテル 京都八条店

昨年は昭和29年卒の先輩から平成27年卒の後輩まで総勢13名と、東京からは都立工芸同窓会藤岡会長・神山先生・細江元理事が参加して下さり総勢16名で開催する事ができました。今年も沢山のご参加お待ちしております！

私事なのですが、24年前の19歳の専門学生の時に、現在勤めるハイジュエリーブランド『Gimel』に「履歴書を受け取って下さい」と電話をかけ今があります。

一昨年退職した20代の先輩が先日英国の有名ハイブランドにアジア人初の本社勤務の職人として採用されました。世界中から月100人以上の入社希望がある中で、退職後ワーホリで語学留学中、専門書でその会社の職人の名前を見つけSNSアカウントを探して熱意を英語で送り、「面接の機会を勝ち取りました。

在校生の皆さん、兆しがあつた時に挑

戦するには日頃の積み重ねが大切です！

関西工芸会 事務局

松田 健 (2001年・A卒)

「姉妹校、パリ・コルベール高校訪問受入」の報告

6月19日(木)～25日(水)の7日間、

2023年度にパートナーシップ協定を結んだコルベール高校の訪問受入を行いました。コルベール高校の生徒さん3名、先生2名をお迎えし、映画研究部フランス班12名が交流活動に参加しました。

同窓会からのご寄付、PTAの方々や通訳の方々のご協力もあり、「全員日本が好きになってくれたようで、また日本にきたい！絶対来る！と言いながら帰って行きました。(通訳さんより)」という良い旅になったようです。皆様、ご協力いただきありがとうございました。

来日中の主な活動は…共同映画製作、都内施設訪問、重要文化財見学、授業参観、部活体験などでした。

都立工芸高校映画研究部フランス班一同 顧問 氏家美佐

生徒の感想『フランス班になって』

海外の方と英語で話すのも、自分たちが主体となって交流を行うのも何もかもが初めてで、たくさん不安もあり、とても大変でした。しかし、フランスとの文化交流のなかで新しい友達や新しい知識

もたくさん増え、楽しかったです！フランス班の中でもより一段と仲が深まりました。

KG全2M20



映画撮影風景



浅草で

技術資料の制作

- 取扱説明書
- マニュアル
- 翻訳
- テクニカルイラストレーション
- 3D
- 音楽
- 通販

有限会社 ステーション・エム
代表取締役 細江 邦雄(M41)

本社 〒162-0828 東京都新宿区袋町25細江ビル
電話 03-6280-8455 FAX 03-6280-8456
<http://www.station-m.co.jp/> e-mail: hosoe@station-m.co.jp

PLANNING CENTER
STATION.M
有限会社ステーション.エム

- Instruction manual
- Service Manual
- Translation
- Technical Illustration
- 3D
- Music
- Mail-order selling

QRコードからホームページの記事をご覧ください



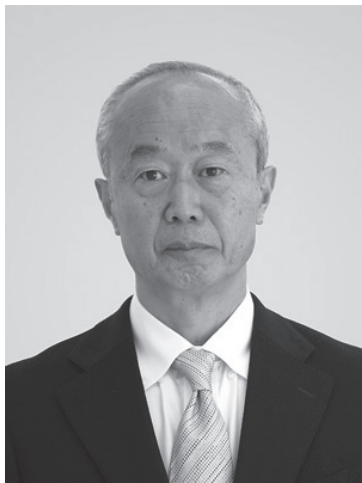
KOGEI-Tokyo
COLBERT-Paris

工芸-コルベール
パートナーシップ・ロゴマーク
(日仏デザインコンペ・グランプリ作品)
2023年度工芸高校デザイン科卒業生・作

校友の活躍

春山文典氏（1964年・F卒）

令和7年春の叙勲で旭日中綬章を受章されました



この度、日本の芸術界を代表する金属造形作家であり、横浜美術大学の元学長、そして日本芸術院会員である春山文典氏が、令和7年春の叙勲において、多年にわたる芸術文化への貢献に対し、旭日中綬章を受章されました。

叙勲の伝達式は、令和7年5月21日にホテルニューオータニにて行われ、伝達式後、皇居にて天皇陛下に拝謁されました。

春山氏は、金属という素材の可能性を追求し、独自の造形美を確立されてきました。その卓越した技術と芸術性は、国内外で高く評価されており、数々の作品を通じて多くの人々に感動を与え続けています。また、横浜美術大学の学長として、後進の育成にも尽力され、日本の芸術教育の発展にも多大なる貢献をされました。

日本芸術院会員としての活動も、日本の芸術文化の振興に大きく寄与されています。

長野県上高井郡小布施町の、おぶせミュージアム・中島千波館で名誉町民記念の「春山文典展『生まれ出る形』」が5月31日から9月30日まで開催されました。

小布施文化観光協会公式サイト



無限標



風の門

第47回日本新工芸展

2025年5月12日〜18日

東京都美術館

日本新工芸展に校友5名が出演されました。学生選抜展高校部門で有馬志保氏が谷中田美術賞を受賞されました。

- 田中照一氏（1964年・A卒）
鍛金 流水
- 尾澤勇氏（1982年・A卒）
鍛金 空より 出羽富士の印象
- 富樫知優氏（2020年・A卒）
彫金 眼福

学生選抜展部門

- 有馬志保氏（2025年・A卒）
月華（谷中田美術賞）



月華

- 大石太一氏（2025年・A卒）
重腫鬼

第65回東日本伝統工芸展

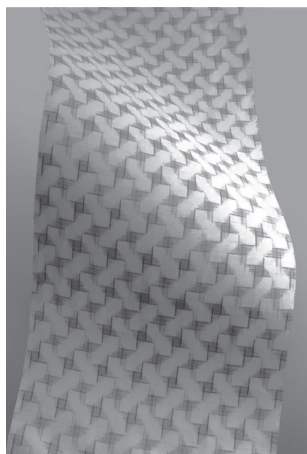
2025年5月14日〜19日

日本橋三越本店

東日本伝統工芸展に校友3名の作品が出演され、鈴木ゆき子氏がアサヒグループ財団賞を受賞されました。

- 大沼千尋氏（1970年・A卒）
接合花器「KURATI」

- 鈴木ゆき子氏（1974年・D卒）
紬織拵着尺「凜として」アサヒグループ財団賞



紬織拵着尺「凜として」

- 松原伸生氏（1984年・D卒）人間国宝
長板中形着尺「菊花文」

第71回創型展

2025年5月21日〜27日

東京都美術館

創型展に校友3名が出演され、神山智子氏が選賞を受賞しました。

- 渡邊賢二氏（元M科教員）
仁王像（阵形）
- 神山智子氏（1972年・D卒）
如意輪観音菩薩坐像（選賞）



如意輪観音菩薩坐像

- 小荒井寛美氏（2007年・M卒）
仏頭・帝釈天半跏像

第53回伝統工芸日本金工展

2025年5月24日(土)〜6月20日(金)

千住・石洞美術館

伝統工芸日本金工展が石洞美術館に於いて開催され、校友3名、また21+部門に11名の校友が入選展示、杉山祥太郎氏が金工部会賞を受賞されました。

● 大沼千尋氏 (1970年・A卒)

切嵌花器「赤の連山・影」

● 佐藤充俊氏 (2005年・A卒)

幾何学文彫金香合

● 氏家幽水氏 (2010年・A卒)

赤胸急須「黄銅鉢」

21+部門

● 杉山祥太郎氏 (2025年・A卒)

鬼神怪獣ガルマ (金工部会賞)



鬼神怪獣ガルマ

● 村井洸太氏 (2021年・A卒)

打ち出し象嵌ピンブローチ「桜文鳥」

● 足立なずな氏 (2025年・A卒)

銅彫金置物「風光明媚」

● 大谷優珠氏 (2025年・A卒)

銅彫金置物「しじまく こころ」

● 黒木千寛氏 (2025年・A卒)

銅鍛金匣「婦人」

● 齋藤依央理氏 (2025年・A卒)

銀花髪飾り「いつまでも」

● 末松紗帆氏 (2025年・A卒)

青銅鑄金置物「とあるリスの一家」

● 高田有瑞樹氏 (2025年・A卒)

青銅鑄金置物「夢」

● 谷口楽宙氏 (2025年・A卒)

銅鍛金打込象嵌酒器「雛」

● 矢口輝宝氏 (2025年・A卒)

銅真鍮煮色鍛金こころ「夢現」

● 山本空弥氏 (2025年・A卒)

銅鍛金蟬流急須「未熟者」

クラス会

ORコードからホームページの記事をご覧ください

2025年5月31日に開催された

平成6年卒業D科クラス会

2025年5月31日、工芸高校デザイン科(1994年卒)の同窓会が四ツ谷のレンタルキッチンで開催されました。このクラス会は、卒業生全員が50歳を迎えた節目の年に行われ、24名の同級生と4名の先生方が参加しました。久しぶりに再会した仲間たちと過ごした時間は、心温まるものであり、特に先生方がご参加くださったことは大変喜ばしい出来事でした。

クラス会では、OBの有志が手作りで料理を振る舞い、参加者たちはその料理を囲みながら懐かしい思い出や近況を語り合いました。料理を通じて、改めて深まった絆を感じる事ができ、まるで学生時代に戻ったかのような温かい気持ちになりました。

再会を通じて、次の節目の年にも集まることをみんなで約束しました。時が経っても再び集まることに感謝し、次回もみんな楽しんで時間を過ごせることを確信しています。



みなさんの元気な顔を再び見られる日を楽しみにしています。



奥村光男

2025年5月11日に開催された

昭和43年卒業A科クラス会

春の陽気に誘われ、A科昭和43年卒の仲間たちが久しぶりに顔を合わせました。会場は水道橋の小さなイタリアアンレストラン。1階を占拠したのは、なぜか全員75歳の元気な団体、病気の話は禁止のルール。よもやま話に花が咲き、笑顔と笑い声が絶えないひとときとなりました。皆、年輪を重ねても若き日の面影はそのまま。次の再

会を楽しみに、それぞれ

の元気を胸に会を後にしました。



堀越敏晴

2024年10月13日に開催された

昭和49年卒業A科クラス会

いつの間にか卒業してから50年。

今でも年に数回集まっていますが今回は

50周年会としていつも以上に連絡をして9名のメンバーが参加してくれました。久しぶりに会っても毎回あつという間に現役当時の

時空にはまり楽しい時間を満喫しています。

我がクラスは校内でも特にまとまりがあり

卒業時には初めて外部での卒業展覧会を単

独で行い卒業式後も大変忙しかつたのです

がとても良き思い出です。これからも出る

る限り和気

あいあいを

級友と堪能

していこう

と思います。

小田部邦彦



110年を超える歩み もっと知りたい都立工芸の歴史

1907年（明治40）東京府立工芸学校創立。1955年（昭和30）、戦後初の同窓会が開かれ、築地工芸会（現都立工芸同窓会）は再結集した。これには戦時から戦後にかけて活動停止状態だった同窓会を再建してほしいという石引校長らの願いもあった。

第9回 創立50周年・60周年 記念行事・展示会・工芸祭

○創立50周年を盛大に祝う

「築地工芸会館」は幻と化す

再建された築地工芸会（現都立工芸同窓会）はすぐに母校半世紀という節目の事業の準備に入った。50周年を迎えるにあたって、最大の事業案は同窓会館「築地工芸会館」の建設であった。旧航空機関士養成所の建物（都の成人教室に利用されていた）に2階を増築し、1階一部にも増設する形でプランを立てて、募金を呼びかけた。これは母校各科長をはじめ先生方と共催の50周年記念事業後援会がつけられての計画であった。しかし、学校側は校舎設備の修復に費用を要する状況から調整がつかず、この案は夢幻と消えた。1957年（昭和32）11月1日、創立50周年記念式



50周年記念工芸祭

時の各科の状況。

●金属工芸科 卒業生の3割はアクセサリー・金属材料・金属玩具関係の3部門に集中していたが、女子ではアクセサリー・プラスチック・宣伝関係・設計製図などに就職している。

●機械科 応募生徒の減少がこのより始まる。都心部では大学進学率が年々高まってきており、普通科志望が増えてきているためである。機械科の卒業生でも進学志望者が増え、求人に応じきれない状況だった。

●室内工芸科 科名変更すると急激に入学志願者が増加した。手加工を重視したことにおいては変わらぬ伝統があった。就職先は家具・造作関係が大半であった。

●印刷科 もっとも技術革新の変革が大きい領域であった。学校の設備更新が進んでも、実際の印刷企業の現場とは差があり、また専門教員の不足にも悩んでいた。2割ほどの進学希望者が出るようになってきた。

●デザイン科 図案科より科名変更。基礎的な勉強を幅広く行い、工業にくくられる科としてはもっとも芸術と関わっていた。進路は広告デザインが主だったものが、工業デザイン、ディスプレイ、玩具、アクセサリーと広がってきていた。進学希望者も3割ほどに増えてきていた。

伊東久江（1985年・F卒）
参考文献・図版出典『工芸学校80年史』『都立工芸100年の歩み』

インテリア科OB・OG展示開催中

9月27日（土）より来年3月後半までの約半年間、母校OB・OG展示ギャラリーにてF・I科の展示が行われています。出展は、1989年岡田里美さん、2014年シヨルダ一三浦孝予さん、2017年大澤駿也さん、2016年村山翰さん、2018年伊藤寧音さん、2018年伊藤聖樹さん、そして、今回は特別に全国大会金賞を受賞した現在3年次在籍の門司亜桐さんの合計7名です。様々な活躍が実感できる、バラエティーに富んだ展示になりました。科を問わず関心を寄せていただけると幸いです。工芸祭などでご来校の際は、OB・OG展示ギャラリーに是非お立ち寄りください。



生徒がデザイン制作した記念スプーン



1階「卒業生展示ギャラリー」展示風景

事務局だより

一般寄附ご芳名

4月1日以降7月31日まで、ご芳志をお寄せいただいた方々は次の通りです。

● 寄付金額 33万9000円

ありがとうございました。

(順不同、敬称略)

江村美月、岩佐泰樹、大場康博、板垣秋司、志田明恵、神山(田上)智子、蓮田博、松田正己、松本七五三吉、若松延男、横山一雄、井上京子、斉藤誠、矢吹郁雄、三橋宏之、鹿野伸子、宮崎忠夫、渡辺隆司、平野堯久、中村真、岩佐泰樹、馬場和夫、丸山士郎、鹿子木誠、鈴木幸男、石井あづみ、鈴木良和、布施達也、井上伸行、五十嵐賢治、亀戸格一、小林衛亮、神山隆夫、飯沼勲、今野健三、茂野勝、神戸道夫、西田耕一郎、林哲三、藤原高遠、渡部なお、津田友政、福田哲夫、藤井喜代子、森谷延周、中澤美佐子、鈴木陽子、松原伸生、町田朋果、久保木聖子、久保木秋徳、佐野史弥、山田栄二、堀越敏晴、松富壽嗣、大野武夫、濱田眞和、櫻井久喜、関根伸司、恩田隆志、堀田喬夫、菊地和浩、高橋裕次郎、山本知二、佐藤貴志、駒村武夫、岩井昌代、芳賀昭正、古木嘉雄、市原博信、浅井将治、春山文典、岡田里美、荒井拓哉、大井正五、大塚晃啓、鈴木良武、畑中ひと美、渡辺昇平、井上正治、小森英夫、松原宏二、高田宏樹、

栃木靖男、大高幸雄、佐藤守克、古井純士、石川進造、曾我部上、原典生、佐竹進、柿坪英志郎、生貝文人、阿部達夫、和田義幸、長井豊、塩田廣恵、松田桃紅、服部綾佳、宇井伊久美、氏家美佐、石澤真奈、藤木威、桂剛、岡村行康、高橋正文、藤田宣男、佐藤幸夫、松井辰弘、小林朗、森實、伊崎憲利、矢ヶ崎敏和、高橋健、荒井彰一、松下治正、河合泰雄、山林愛実、田中彩世、満瑠月、村上五雄、西井和男、佐藤千尋、古澤貞男、萬羽進、保科和夫、鈴木宣喜、松井眞矢、紫藤竹夫、須田賢司、武田和之、寺田久子、沢崎孝子、坪井裕、田中芳貴、田中沙智、大澤峻也、長谷川奏、岩花幸信、村尾隆、橋本恵光、飯塚邦雄、萬澤佐多子、小宮滋、千石精一、井上文雄、糸川富子、大林眞理子、中村保弘、三日月康男、長谷川充、山岸政彦、石橋弓子、小田野りせ、宮森隆志、大橋新介、服部功、木下晴雄、柿坪英志郎、石井三樹郎、横山裕、松岡道夫、山田敏雄、関口信幸、大西圭、一ノ瀬瑠璃、旦保花瑛、市村雄太、大村六花、吉田積人、高木実、桑原祭、細江邦雄、篠宮秀雄、小口輝夫、渡辺義太、井戸健輔、吉田英昭、長堀映司、工藤精一、伊東久江、久保田晃、久保田眞奈美、山田一彦、其田卓三、木村仁宣、中島隆、襟川英利、澤木武雄、畑中ひと美、石川勝、嘉藤浩一、松村金太郎、杉浦俊和、多田洋一、浅岡輝彦、羽切美代子、国本淑子、福田哲夫、南伸宏、福島彰生、佐藤秀男、山田康幸、千明敏浩、

帆足宗二郎、松原宏二、齋藤文仁、福田一郎、古谷芳、楮沢知里、岡野優子

訃報

前回の会報(185号)以降、本会宛正式にご連絡がありました方々は、次の皆様です。ご冥福をお祈り申し上げます。

() 内は逝去された日です

片山隆正氏 S 18 A 卒 (R 1)
恩田隆志氏 S 18 M 卒 (R 6・12・9)
鈴木鬼之助氏 S 21 F 卒 (R 7・4・1)
小山清一氏 S 25 A 卒 (R 5)
竹原宏氏 S 26 M 卒 (R 6・8・24)
杉本良三氏 S 27 M 卒 (不明)
渡辺健一氏 S 29 P 卒 (不明)
松田正巳氏 S 33 D 卒 (R 7・3)
土屋登勇氏 S 34 P 卒 (R 7・1・16)
政岡美智子氏 S 34 D 卒 (不明)
田口公一氏 S 37 P 卒 (R 4・12・6)
篠崎忠志氏 S 46 P 卒 (R 7)

2025年度 工芸祭のお知らせ

10月25日(土)、26日(日)の2日間、工芸祭が開催されます。テーマは「深海探検」です。各科どの様な趣向を凝らした展示になるのでしょうか？
今年と同窓会コーナーで「100周年記念誌」の販売の他に「工芸祭バッジ」を200個限定で販売をいたします。校庭にキッチンカーも出店されます。
工芸祭詳細は母校HPをご覧ください。



2025工芸祭ポスター(左)
2025工芸祭バッジ(右)



医療機器の分野で「世界初」の取り組みを始めています。



「人の未来へ、暮らしに役立つものづくり」を信条としてきた私は、いま新たに医療機器分野への挑戦を決意。その第一歩として開発した製品がディスプレイ電極です。QRコードからご覧いただくことができます。
同窓生のみならず、ご興味があれば私と一緒に新たな事業にチャレンジしてみませんか？

第14期 都立工芸高校卒
代表取締役 駒村武夫

SOFKEN
株式会社 ソフケン
047-498-1111 www.sofken.co.jp/

母校だより

2025年度全日制体育祭開催

5月22日(木)、全日制体育祭が六義公園運動場にて盛大に開催されました。前日までの雨予報がまるで嘘のように晴れやかな空の下、全学科が一致団結し熱い戦いが繰り広げられました。



生徒会だより

今期生徒会で活動したことを報告させていただきます。校内の活動として、生徒総会、球技大会、対面式、部活



映画研究部(全日制)

ぴあフィルムフェスティバル2025で上映決定!

1977年より続く、『映画の新しい才能の発見と育成』をテーマに活動するぴあフィルムフェスティバル。活動の中心となって開催される自主映画のコンペティション『PFFアワー



ド』に全日制映画研究部の応募作品が入選しました。

応募総数795作品の中から22作品という、貴重なひと枠です。

定時制修学旅行 in 沖縄

5月20日(火)から23日(金)までの3泊4日で定時制4年生が修学旅行で沖縄に行ってきました。1日目は、移動日で朝早くに羽田空港に集合し、那覇空港に着いてからホテルまで移動し荷物を置いてから、国際通りを自由行動。2日目は、平和祈念公園で当時の話を聞きながら記念館などを見学。午後は、美ら海水族館の自由散



策でした。3日目は、午前はいにくの雨で予定を変更し、ものづくりを体験。午後はマングローブ散策とカヌーを体験しました。最終日にはタクシーでの班行動。アメリカンビレッジや鍾乳洞、そして首里城など、各班で決めた行程を楽しんだようです。

動紹介、一斉委員会の企画と運営を行いました。この他に、傘の貸し出し、あいさつ運動、目安箱の各階設置、パンの自販機の見直しとして新しい自販機や行事におけるキッチンカーの導入を検討、校則改定のための活動等、生徒の声をとり入れ進めて参りました。今期で解決、改善が難しかったものに関しましては今後も引き続き活動していく予定です。

また、校外の活動として、7月に工科高校ドリームフェスタに参加し、工芸の魅力を中学生や保護者の方に発信してきました。9月と4月には富士見警察署の方と一緒に交差点で

防犯グッズ等を配布し、交通安全キャンペーンに協力させて頂きました。11月に文の京こどもまつりボランティアに参加しました。5月にはコンタクトケースを企業に寄付しました。7月には文京区の方と防災訓練を行いました。

1年間生徒会活動へのご理解とご協力ありがとうございました。今後の生徒会もよろしく願います。

生徒会長 陶 礼望
生徒会 同窓会のイベント
「OB・OG展示前の交流会」
6月14日(土) 午後1時から、生徒

会との「A科OB・OG展示作者による生徒会との交流会」が「OB・OG展示ギャラリー」で開催されました。パネリストは出展している星野玲さん(2016年・A科卒)と汲田日向子さん(2016年・A科卒)。

生徒会役員と生徒14名(内男子2名、先生3名、同窓会3名、合計20名での交流会となりました。

作品の解説はもとより、生徒からは「卒業後の大学から社会人になるまでのこと」など、卒業した後のことや不安などを若い先輩から直接聞けた良い機会になりました。

生徒会長 陶 礼望

生徒会 同窓会のイベント
「OB・OG展示前の交流会」
6月14日(土) 午後1時から、生徒

